

アートを通して、地域と大学が連携して、過疎化と高齢化が進むコミュニティ（集落）の再生と地域間の推進を図り、地域ブランド構築のための基礎的調査に基づく実証活動

学生団体名：金沢星稷大学美術サークル（金沢星稷大学）

参加学生：竹口しのぶ・高瀬麻衣・菊入翔・澤武祐紀・馬場史江・野村早紀（ほか学生スタッフ 32 名）

1. 地域活動の概要

アートを通して、故郷をベースとした「地域らしさ＝地域ブランド」の体験価値として見出すため、地域に関わる人々がコンセプトを見つけるところに「地域力」を涵養する地域ブランドがあると考え。この考えをもとに宝達志水町免田集落の近隣の幼児や小学生そして保護者の皆さんと共に、免田海岸で地引網とサンドアートを行う。地引網は元々免田で行われていた地場産業であり、サンドアートはそこにある砂浜の砂という素材を利用するものである。さらに今回は金沢星稷大学の近隣の幼児、児童、その保護者、学生に来てもらうことで宝達志水町を知るきっかけになると予想される。



2. 地域活動の具体的な内容

i) 実施日

実施は、平成 22 年 7 月 25 日に宝達志水町免田海岸で行われた。これまでの金沢星稷大学のワークショップの連携で行われ、「第 2 回オープンピアッツァ in 宝達志水町 - SAND☆KINGDOM - ～ (7) なんてたって (2) フルサマーだもん (5) GO! GO! GO! ～」と命名された。当日に向けて 6 月上旬からスタッフミーティングを行った。

ii) 実施内容

本番まで期間があり、入念にミーティングを重ねた結果、内容として「サンドアート」「砂の迷路の作成」「スイカ割り」「地引網」の 4 つのプログラムを行うことになった。

集合は現地の場合と学校集合の後バス送迎で向かう二通りを設置した。サンドアートは、免田海岸の砂浜と海水を利用して固めた砂の土台を削り、親子や友達と協力しながら砂象を作るプログラムである。砂の迷路とは、事前に学生で地域の方と相談しながら作成した物であり、サンドアートの会場へと続く砂浜で行った。スイカ割は夏の風物詩であるが、なかなか家庭では出来ないのでプログラムを組み込んだ物である。地引網は、今回のワークショップのメインの活動である。宝達志水町の方との交流に重点を置いた活動である。



特に、免田海岸ならではの特性を生かしたサンドアート、砂の迷路と地引網に重点を置き、「地域らしさ＝地域ブランド」を基にしている。サンドアート、砂の迷路に関しては地域の素材との触れ合い、つまり砂浜に触れ合うことを意味し、地引網に関しては地域の人々との触れ合うことを意味している。

iii) 学生の実施した活動・役割

今回は宝達志水町免田海岸で行う事もあり、大学と免田海岸を往復しながら事前準備を行った。大学のワークショップ「オープンピアツァ」でも初の金沢市外の活動でもあったので、現地の視察を徹底するように行った。移動時間の事も考えた上で時間配分に配慮しながら、プログラムを練り、計画を立てた。

これらを踏まえ、まずはワークショップを知らせるチラシづくりと参加申込書づくりを行った。これまでの参加者名簿を基に大学の近隣の幼稚園児や小学校への呼びかけ、引き続きワークショップの存在を知ってもらうことが目的である。さらに、参加者人数を確認するとともにバスの乗客人数を把握し手配する準備に備えるという目的もあった。今回は、これらに加えて宝達志水町免田海岸付近の幼児や小学生、その保護者の方への呼びかけも行った。これは地域交流を深めると共に、地域への誇りや愛着の創造へと繋げることを目的としている。

実施当日に向けて、前日から泊まり込みで準備を行った。クリーンビーチから始まり、テント張り、栈橋の設置、簡易トイレの設置などの会場設営を行った。それらに加え、当日必要となるサンドアートの土台づくり、砂の迷路の作成も前日の段階で行った。

iv) 当日の様子

実施当日は、小学生約 108 名、未就学児約 32 名、の保護者約 43 名、学生スタッフ・教授約 38 名の参加があった。うち、免田集落の方々の参加は約 31 名ほどであった。天候は晴れで、とても暑いくらいであり、小まめな水分補給が必要である気候だった。前日、能登半島に低気圧が近づいたので大風が吹き、このままでは地引網は無理と言われていた。しかし、当日は風が治まり、無事に行うことが出来た。

最初に、宝達志水町ふるさと振興室室長からの挨拶があり、最初のプログラム、サンドアートから始めた。サンドアートでは、家族のグループが多く、親子で会話をしながら作業を進めている様子であった。中には、張り切るお父さんの様子も見られた。子どもだけのグループもあり、支援の必要に応じて、学生スタッフが声かけをしている様子もあった。作品が完成すると子どもたちの嬉そうな笑顔が見られ、ほかの作品を見回ったりする親子もいた。

次に昼食の時間を設け、それぞれで免田海岸を楽しむ時間を設置した。とても暑い天候であったこともあり、確りとした休憩時間を作った。

昼食時間を終え、夏の風物詩であるスイカ割りを行った。スイカ割りは、割る子どもを応援するなど楽しく活動することが出来た。スイカが割れると歓声があがり、参加者でおいしくスイカを頂いた。

スイカ割りをしている間に、地引網の準備も出来て、今回の



ワークショップのメインである、地引網へと移動した。地引網では漁師の方を先頭に、子ども、保護者、学生スタッフが続ぎ、網を引いた。学生スタッフの掛け声を中心にみんなで網を引き、少しずつ網が引ける感覚を味わった。その中で親子同士、漁師の方と子ども、学生スタッフと子どもなど、さまざまな言葉かけ、会話があった。魚が揚がると子どもたちも興味津々に魚を触ったり、眺めたりしていた。漁師の方もとてもいい笑顔で、子どもたちの質問に答えている様子も見られた。また積極的な保護者の方は漁師の方や地域の人に話しかける場面も見られた。

v) これからの活動

活動の約一カ月後に、参加者へアンケートを配布した。ただいま回収中であり、集計した後に宝達志水町の方と報告会、反省会を行う予定である。その場で、意見や感想を交換し、共有しようと考えている。

3. 今回の地域活動の評価

当日の様子から見られたように、親子や友達同士の交流は勿論のこと、参加した幼児、児童と宝達志水町の方々との交流、保護者と宝達志水町の方々との交流が見られた。交流メインの活動であったため、これは狙い通りであるのでとても良い機会になったのではないと思う。

参加した子どもたちと地域の方と一緒に網を引き、魚が揚がったときの漁師の方の顔がとてもいい笑顔で、子どもたちの質問にも嬉しそうに答えている姿を見たとき、このようなイベントで子どもたちと触れ合う機会があまり無いのだと実感した。また会話の中で、子どもの心に「漁師ってすごいな！かっこいいな！」といった憧れを抱く機会となっているようだった。さらに、獲れたばかりの魚を初めて見る親子もいたようだ。漁師の方に積極的に話しかける保護者の姿も見られた。このような新鮮な体験から親子の間に会話を深めたり、地域の方々と交流出来たりする機会になったのではないかと。



「地域ブランド」を生かした活動を通して、このような体験は家庭内ではなかなか出来ないものである。さらに地引網という力を合わせて行う活動から、幼児や児童、保護者間を中心とし、金沢市内の親子から宝達志水町免田集落周辺の地域の親子の触れ合いを持つことも出来た活動となった。

「地域ブランド」を生かした活動を通して、このような体験は家庭内ではなかなか出来ないものである。さらに地引網という力を合わせて行う活動から、幼児や児童、保護者間を中心とし、金沢市内の親子から宝達志水町免田集落周辺の地域の親子の触れ合いを持つことも出来た活動となった。

4. 今後、この地域活動を継続、活発化していくために必要なもの、および課題

「地域ブランド」をその地域の方々と見出し、体験価値を得るためには、やはり地域の方々との連携に重点を置いたコンタクトが必要である。綿密な相談を繰り返すことでスムーズな運営を行うことが出来るようになる。また、学生スタッフ同士の意思伝達が重要であり、特に人数の多い場合は徹底するべきである。

今回の良かった点としては、チラシ配布を早い段階で行ったことである。チラシ、参加申込書を大学近隣の幼稚園、小学校、これまでの参加者に配布するに加え、免田集落の人々へ配布したことで様々な方々を集めることが出来た。これはこれからも続けていくべき点であると考えている。

5. その他（学生や地域の方からの感想等）

学生スタッフの感想には、とても楽しく、充実出来たというものが最も多かった。中には、いろいろな方と交流出来た事や、自分自身、免田海岸と触れ合うことが出来たという意見もあった。また、準備段階をもっと徹底する必要があることや、意思疎通の充実をはかるべきという意見もあった。

参加者からの意見では、楽しかった、また来たいという意見が多かった。保護者と一緒に参加しなかった家族では、違う友達も多く、子どもが不安がっていたが、帰って来てとてもすごく楽しそうに話を聞かせてくれたという感想があった。また、時間が足りないようだった、トイレの設置に問題があるといった改善すべき点の指摘もいただいた。その他には、海に連れて行くことは家族でも出来るが見知らぬ人と海へ行き、いろいろな活動をするはこの日、この時しか無い、といった意見や、今回チラシを見てすぐに参加を申し込みしたがこのようなワークショップをもっと宣伝し、さまざまな人へ伝えて欲しいといった意見もいただくことが出来た。何はともあれ充実した時を過ごす事が出来たと思われる。

